

利用学生の多様なニーズに応えるために ～情報保障講習会を受けての報告と今後の展望～

東北大学特別支援室 学生サポーター（三戸亮哉、石川秀香、北上和希、岡崎望、工藤敦博）

【実施日時】2025年7月5日、6日

聴覚障害学生の多様なニーズに応えるため、聴覚障害の基礎知識や情報保障の意義を改めて学び直し、新システムであるT-TAC Caption2⁽¹⁾を利用したパソコンノートテイクの講習会に参加しました。

(1)遠隔情報保障システム「T-TAC Caption2」は、国立大学法人 筑波技術大学の三好教授が開発したシステムです。



〈講習会の流れ〉

講義

社会的障壁を考える
情報保障とは

利用学生の声

ノートテイクと
サポーターの役割

単独入力

一人で、話者の話をすべて
文字入力するノートテイク

連係入力

複数人で協力して1つの文章
を作成していくノートテイク

〈サポーターの感想〉



その場にいるすべての人が、同時に同じ質と量の
情報を得て参加できることに加え、
場の空気を伝えることも重要だと感じた。

聴覚障害とは「聞こえる音が無音に近い状態」だと
想像していたが、実際には多様な聞こえ方がある
と知り、驚いた。

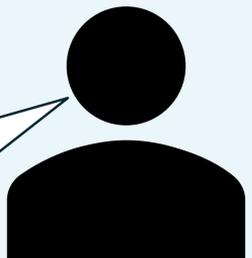
入力では、句読点を適切に入れる意識や、
細かな変換を行う必要があると感じた。

連係入力では、ペアで呼吸を
合わせることの重要性を痛感した。



〈利用学生の感想〉

サポーターが利用学生の立場に立ち、わかりやすく
情報を伝えようとする姿勢を拝見でき嬉しく思いました。
今後もぜひ情報保障に関心を持ち続けてほしいです。



〈今後の展望〉

スキルアップ

T-TAC Caption2の練習会を増やす

UDトークとの使い分け

利用学生のニーズに合わせて、T-TAC Caption2やUDトーク
を使い分けた修学支援を行う

支援の選択肢を増やす

他の手段(例:手話、筆談など)の勉強会を行う

利用学生の声を積極的に

実際に利用学生と話し合う機会を増やす

学生サポーターについての紹介

学生サポーター（学サポ）は、障害のある学生が安心して学べるよう支援する学生ボランティアです。64名（2025年8月時点）が登録し、学部・学年を問わず幅広いメンバーが活動しています。養成・イベント・広報・課外ボランティア活動・機器ネットワーク管理の5つのワーキンググループで、「誰もが過ごしやすいキャンパス」づくりを目指しています。

【養成・スキル講座】

学生サポーターとして登録する
ときに必要なスキルや知識を
疑似体験を交えて獲得する



【研修企画】

スキルアップのため、当事者を
招き、日常生活の工夫や
困りごとなどの話を聞き、見識
を広げる



【アクセシビリティ調査】

車椅子利用者など歩行が困難
な方のために、坂道や段差、
みんなのトイレの場所などを記
載したマップを制作する



【情報保障】

主にUDトークを用いて情報保
障を行なう
音声情報の誤変換や文の
切れ目等を修正する

